

“みんなが育つ”学校づくり



互いに学び合おうとする温かな関係が生まれるメンターチーム

研究協力校で推進している、「メンターチーム」と「自己マネジメントシート」を活用した、若手教員の資質・能力の向上を目指した研究において、取組の成果が様々な形で表れてきました。

昨年の夏、各協力校のメンターとメンティは自己マネジメントシートを活用した面談を通して、実現したい教師像（目標）を設定し、メンターチームとしての活動をスタートさせました。コロナ禍の影響もあり、特別な活動を行うことが難しい状況でしたが、日々の取組に工夫する姿が見られました。

今回は、その工夫について、江波中学校のメンターチームの取組をご紹介します。ぜひ教職員の人材育成や学校組織の活性化のヒントとして活用してください。

★江波中学校の「メンターチーム」の日々の取組

実践紹介 in 江波中学校

江波中学校では、同じ教科内でメンターとメンティのペアをつくり、本年度は2つのペアがメンターチームとして活動しています。昨年末、メンターとメンティそれぞれにインタビューを行ったところ、メンターがメンティの取組を支援する上で心掛けたこと、そして、メンターの支援により生まれたメンティの学びを聞くことができました。

チームA

メンター
6年目

自身の経験も交えながら、メンティが納得できるように、たくさん話をしました。授業づくりについて意見交換したり、教材について話し合ったりする中で、自分自身も刺激を受け、自らの学びにつながることも多かったです。

メンターの授業を参観してどのように展開していけばよいのかを学びました。特に生徒目線で作成されたワークシートが生徒の体験的な学びにつながるのだと実感しました。

メンティ
2年目

チームB

メンター
4年目

メンティのクラスに困難さを抱えた生徒がいるので、その様子を見に行ったり気にかけてたりしました。また、先輩のサポーター教員に声をかけ、メンティを含む3人で授業や生徒指導について話す機会を設けました。

メンターに自分の授業へ入ってもらい、生徒との関わり方を学びました。そのおかげで、生徒との関係が良好になり、心に余裕が生まれました。同学年・同教科なので話がしやすく、ICTの活用など実践の参考にしています。

メンティ
2年目

インタビューから、江波中学校のメンターチームには、互いに学び合おうとする温かな関係が生まれていることが分かりました。また、校長先生からも、「メンターという役割によって、責任感が増した。」「メンターとメンティが関わり合い、話をしている姿をよく見かける。」「本人たちは特別なことはしていないと言っているが、お互い本当に成長している！」と、嬉しいお言葉をいただきました。

この江波中学校での実践を踏まえ、若手教員同士が学び合いながら資質・能力を高めるためのポイントをまとめます。

★若手教員同士が学び合いながら資質・能力を高めるためのポイント

ポイント1：若手後期教員（教職経験4～6年目）に「メンター」という役割を任せる。

- 後輩に目を向け、積極的に関わるようになる。
- 後輩を支援するために、先輩に聞きに行くなど自らも学ぶようになる。
- チーム学校の一員としての責任感が生まれる。

ポイント2：「メンターチーム」のような若手教員同士が関わり合う場や機会を仕組む。

- 相談・共有できる場や機会があることで、安心感につながる。
- 授業づくりや生徒指導のヒントを得ることで、見通しをもつことができる。

ポイント3：経験豊富なミドルやベテラン（サポーター）を巻き込む。

- 若手教員とミドル、ベテランがつながり、学校全体に学び合い、支え合う雰囲気が生まれる。

チーム学校の
一員として
がんばるぞ！



研究協力校の実践を通して、本研究の手立て（「メンターチーム」と「自己マネジメントシート」）の有効性や、校内で実践するためのポイントが分かってきました。次回は、本年度の研究のまとめをお伝えします。